

平成 25 年度文学研究科共同研究経費申請書

下記の通り文学研究科共同研究経費を申請します。

研究代表者 (申請者)氏名	内田次信	専門分野・ コース名	文芸学	職名	教授
研究課題名	ヨーロッパ芸術におけるギリシア・ローマ神話の水脈に関する分野横断的研究				
研究目的 〔研究の目的、その意義と予想される成果、新規科研費獲得に向けた準備状況などを記入してください。昨年度科研を申請して不採択になった場合は、研究継続・再申請準備状況も記入してください。〕					
研究の目的 芸術はしばしば神話を母胎とし、また神話は芸術において表現されることで新たな生命を宿す。本研究は、ヨーロッパ芸術の表現に顕著に認められるギリシア・ローマ神話の水脈を、西洋古典文学、文芸学、美学、美術史学において分野横断的に追究することを通じて、芸術と神話の不即不離の関係を際立たせ、ひいては、芸術と神話の本質規定に独自の寄与をなすことを目的とする。 本研究の意義と予想される成果 ヘレニズムとヘブライズムがヨーロッパ文化の基底を成していることは広く知られている。しかし、ギリシア・ローマ神話がヨーロッパ芸術に与えた影響に関しては、それぞれの専門分野ごとに散発的に研究がなされるのが通例である。本研究は、こうした通弊を克服するべく、西洋古典学と芸術諸学の専門家が緊密に連携しあうことで、実効性のある課題遂行の実現を目指すものである。一口にギリシア・ローマ神話と言っても、その内実は多岐にわたる。従って、叙事詩、抒情詩、劇詩といった三大基本文芸ジャンルのみならず、俗信や伝説と言った言伝え、さらには、小説や哲学・歴史と言った散文にも目配せをする必要がある。また、ギリシア・ローマ時代の造形芸術も、多分に神話によって支えられているがゆえに、文献資料と照合しつつ、それらについて実証的に研究することも不可欠である。こうした文献学的ないし実証的手続きによって再構成されるギリシア・ローマ神話の祖型は、取りも直さず芸術諸学の歩むべき道筋を示す。つまり、文学、演劇、音楽、美術と言った芸術諸ジャンルも、ギリシア・ローマに範を求めるときは、自ずから一定の神話的規制の内にある。しかし、芸術は独創性の表現である。常にこの神話的規制を超脱する傾向性を示す。それゆえ、本研究は、ギリシア・ローマ神話が内包する多様性、その古典的規範性、さらにはその芸術表現における独創性を多元的に把握することを試みる。つまり、西洋古典学と芸術諸学を架橋して、西洋古典学を自己完結的枠組みから解き放つとともに、往々にして対象規定に苦慮する芸術諸学に対して、古典的規範性を指定するのである。それにより、古典的規範性と芸術表現における独創性の関係性も明るみに出るものと期待される。 また、本研究は、2010 年度、2011 年度、2012 年度における文学研究科共同研究を総括する性格を帯びている。すなわち、専ら文学との関連において考察されて来たギリシア・ローマ神話を、広く芸術一般との関係において再び捉え直すことを通じて、巨視的視点から、神話の内に芸術のある種の始源を、芸術の内に神話の多層的変容をそれぞれ確認することができるものと期待される。 新規科研費獲得に向けた準備状況 今年度、本研究に基づいて、以下の二つの科研費を申請する予定である。 基盤研究(B)「ヨーロッパ文学におけるギリシア・ローマ神話の水脈に関する分野横断的研究」(代表 内田次信) 基盤研究(C)「プロクロス神話論」(代表 加藤 浩)					

研究計画・方法

〔研究計画・方法を具体的かつ詳細に記述してください。また、研究経費（次ページの支出計画欄に記載）の必要性・妥当性を明確にしてください。〕

研究会の開催 本研究の目的を達成するために、文芸学研究室で組織しているギリシア・ローマ神話学研究会と密に連携し、つごう 4 回の研究会を開催する。

第 1 回目の研究会では、「ギリシア神話の成立とその変容」をテーマに設定する。内田次信、西村賀子、西塔由貴子が担当する。内田次信は、ピンダロスを始めとするギリシア抒情詩人における神話叙述を精査するとともに、またルキアノスとディオーン・クリュソストモスを中心とする帝政期の散文作家における神話の変容をも跡付ける。西村賀子は、ホメロスとヘシオドスの読解を通じてギリシア神話の成立を跡付けると同時に、ギリシア悲劇における神話の変容をアイスキュロス、ソポクレス、エウリピデスに即して解明する。西塔由貴子は、ホメロスにおける色彩表現に着目することでギリシア神話における色彩の役割を解明し、色彩論の観点から神話の変容を跡付ける。

第 2 回目の研究会では、「ギリシア神話の変奏としてのローマ神話」をテーマに設定する。五之治昌比呂と西井奨が担当する。五之治昌比呂は、ペトロニウス『サテュリコン』やアプレイユス『変身物語（黄金の驢馬）』といったラテン小説を対象とし、ラテン小説においてギリシア神話がいかに受容され、またいかに変容されているのかを解明する。西井奨は、ギリシア神話を後世に伝える上で最も影響力の大きかったオウィディウス『変身物語』を対象とし、ギリシア神話と『変身物語』の構造的異同を特定して、いかにしてこの作品が芸術モチーフの一大源泉となりえたのかを具体的かつ実証的に解明する。

第 3 回目の研究会では、「文学作品の源泉としてのギリシア・ローマ神話に関する文芸学的考察」をテーマに設定する。加藤浩、渡辺浩司、里中俊介が担当する。加藤浩は、ギリシア・ローマ神話が作品化されるメカニズムをミーメシス、アレゴリー、シンボルといったタームに即して記述するとともに、初期近代における古典詩学の隆盛の背後に控えているギリシア・ローマ神話の規制力を解明する。渡辺浩司は、ヴォルフ『ホメロス序説』に端を発する「ホメロス問題」の意義を再検討し、現代にまで波及しているその問題の意味を文芸学的に考察する。里中俊介は、ギリシア神話とプラトン哲学の関係性を究明することを通じて、神話と哲学の親近性と疎隔性の原型的な在り方を再構成し、神話を語る際の哲学的言説の特性を解明する。

第 4 回目の研究会では、「美術作品の源泉としてのギリシア・ローマ神話に関する美学的および美術史的考察」をテーマに設定する。田中均と桑木野幸司が担当する。田中均は、ヴィンケルマン『ギリシア芸術模倣論』『古代美術史』などを主要テキストとして新古典主義芸術の神話的背景を探るとともに、ドイツ・ロマン主義美学における神話概念に古代の神話がいかなる影響を与えたのかを解明する。桑木野幸司は、庭園芸術の黄金時代である十六世紀イタリアにおける、古代ギリシア・ローマ神話のモチーフが多用されていた装飾に関する図像学的考察を試みる

基礎文献の収集

本研究を実効性あるものとするために、大阪大学に所蔵されていない、本研究遂行上不可欠な基礎的文献を収集する。その経費として、設備備品費を支出する。

研究成果報告書の刊行

2014 年 3 月に、本研究の総括として、研究成果報告書を刊行する。その経費として、印刷製本費を支出する。

研究組織

氏名	年齢	所属機関・部局・職名	専門分野
内田次信	*	文学研究科・教授	西洋古典文学
西村賀子	*	和歌山県立医科大学・教授	西洋古典文学
加藤 浩	*	文学研究科・准教授	文芸学
五之治昌比呂	*	日本語日本文化教育センター・准教授	西洋古典文学
田中 均	*	文学研究科・准教授	美学
桑木野幸司	*	文学研究科・准教授	西洋美術史学
渡辺浩司	*	文学研究科・助教	文芸学
西塔由貴子	*	京都精華大学・講師	西洋古典文学
西井 奨	*	学振特別研究員 PD（大阪大学）	西洋古典文学
里中俊介	*	文学研究科・博士後期課程	文芸学

※ 1 行目に研究代表者（申請者）を記入してください。記入欄が足りない場合は追加してください。

※ 本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

研究スケジュール

時期	内容
H.25.7.	第 1 回研究会・第 10 回ギリシア・ローマ神話学研究会
H.25.10.	第 2 回研究会
H.25.12.	第 3 回研究会・第 11 回ギリシア・ローマ神話学研究会
H.26.2.	第 4 回研究会・第 12 回ギリシア・ローマ神話学研究会
H.26.3.	研究成果報告書刊行*

※ 記入欄の数・幅が足りない場合は適宜追加・拡大してください。

研究経費の支出計画（単位：千円）

設 備 備 品 費		ギリシア・ローマ神話学関連書籍購入費	200 千円
旅 費	国 内 出 張	和歌山ー大阪（7 千×4）	28 千円
	海 外 出 張		千円
	外 国 招 聘		千円
人 件 費	人 件 費	アルバイト雇用費（7 千×4）	28 千円
	謝 金		千円
事 業 推 進 費	消 耗 品		千円
	印 刷 製 本	研究成果報告書印刷製本費	250 千円
	通 信		千円
	会 議	研究会開催費	40 千円
	招聘外国人滞在費		千円
そ の 他			千円
合 計			546 千円

外部資金獲得・応募状況（最近5年間のものまたは応募予定のもの）

外部資金の名称 と研究期間	研究課題名・ 研究代表者氏名	全研究期間の 総研究費 （単位：千円）	採 否	本申請との関連性
科学研究費 基盤研究(B) H. 24-H. 26	「ギリシア・ローマ神話 のアレゴリー表現・解 釈・理論に関する総合的 研究」内田次信		否	本研究の出発点に位置する研究で ある。
科学研究費 基盤研究(B) H.26-H.28.	「ヨーロッパ文学にお けるギリシア・ローマ神 話の水脈に関する分野 横断的研究」内田次信			本年度の科研費申請に応募する研 究である。

科学研究費 基盤研究(C) H.26-H.28.	「プロクロスの神話論」 加藤 浩			本年度の科研費申請に応募する研究である。
--------------------------------	---------------------	--	--	----------------------